

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970800286		
法人名	社会福祉法人 仁南会		
事業所名	つぶら・すじゃく		
所在地	奈良県御所市柏原721-1		
自己評価作成日	平成30年1月25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970800286-00&amp;PrefCd=29&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970800286-00&amp;PrefCd=29&amp;Versi</a>
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成30年2月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぬくもりのある創造的なホームづくりを法人理念とし、利用者の行動を抑制することなく気持ちに寄り添うケア、特別な毎日ではなく当たり前の日々を自分らしく過ごせることを目指している。職員の気づきをユニット内ミーティングや連絡帳を活用し共有しながら利用者主体のケアを実践することを重要視している。また施設内には季節の花を飾るように心掛けている。季節を感じる行事を大切に、買い物やドライブなど外に出る機会を多くとるようにしている。また協力医療機関があり、必要時はいつでも受診してもらえる体制が整っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の法人が運営する特別養護老人ホームに併設された当ホームは、行事を合同するなど法人の強みを活かしている。事業所名の「つぶら・すじゃく」とはかつて御所市にあった地名をこのホームの名前としたもので「地域に根差したホーム」を目指している。法人理念の「ぬくもりのある創造的なホームづくり」とは利用者に対して対処的なケアをするのではなく、毎日のコミュニケーションから利用者の思いをくみ取り利用者を大切にするケアである。アットホームで、利用者はここを我が家とばかりに、くつろいでおられる。隔週の日曜日には皆で和気あいあいとドライブに出かけたり、買い物に行ったりと楽しんでおられる。今年度のホーム目標は「グループホーム内での季節感ある行事の充実」と「職員研修の充実」を挙げており、今後の成長が楽しみなグループホームである。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念の唱和と、施設内研修でも法人理念について周知することで職員全体で理念を共有し「ぬくもりのある想像的なホームづくり」を実践につなげています。	法人理念の「創造的なホームづくり」とは利用者に対して対処的なケアではなく、利用者の思いをくみ取することを大切にされたケアである。今年度の目標は「季節感のある外出支援と職員研修の充実」である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアによるクラブ参加や地域の祭りや駅伝の応援などを通じて地域との交流に取り組んでいます。	盆踊り・バーベキューなど、併設の特別養護老人ホームの行事に利用者が参加している。書道や絵手紙のボランティアの訪問があり、地域の秋祭りには神輿の巡行がホームまでやってきて、子ども達と触れ合う機会がある。	地域との繋がりは、主に母体の特別養護老人ホームとの交流が多く、地域密着型のホームとしての特質が活かされていないように思われる。独立した地域密着型事業所としての個別化を図り、地域との交流を密にされる取組みを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段から近隣の方や面会の家族さんなどに挨拶や会話を心がけ、気軽に話しかけてもらえるような雰囲気大切にしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議と行事と合わせたりしながら家族さんも参加しやすいよう考えている。そこで出た意見を等をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は市担当者、地域区長、利用者、利用者家族に参加の声をかけて2ヶ月に1回開催している。行事報告や案内、そして参加者からホームへの意見や要望を聴いている。	市担当者・家族に案内は出しているがここ一年は運営推進会議への出席が得られていない。ホームの在り方や考え方を理解してもらい協力してもらうためにも、市担当者・家族への運営推進会議参加の要請の継続を切に期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に意見をもらったり、相談、報告するなど連携体制を築いている。	市担当課とは、時に利用者についての相談やホーム空き情報等の報告をするが、大部分は法人全体で市との連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での委員会や施設内外研修への参加することで身体拘束について啓発を行っている。なるべく利用者の思いに寄り添うことを大切に考えて対応している。	法人で身体拘束委員会を月1回開催して、その内容をホームの職員会議におろし理解を深め共有している。昨年11月、全職員に「スピーチロック」のアンケートを実施し、事例検討した結果、「利用者本位のケアの大切さ」に気づいた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、委員会や職員会議などで報告や連絡、指導を行い、情報を共有し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加を通じ、制度の理解に努めている。また現在成年後見制度を利用している利用者もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、質問などあればその都度説明させてもらうことで理解、納得していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など、利用者や家族の意見を聞くようになっている。意見箱を設置しており、意見要望等があれば早期に対応できるようにしている。	運営推進会議の案内やホームでの手作りおやつイベントの案内を家族に出しているが、ここ一年は家族の参加が得られていない。	前回からの外部評価の課題であった「法人からの個別化」が進んでいない。グループホーム内の独自の行事を工夫し充実させ、そこで家族の意見を聴く機会づくりの取組みを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や職員会議の場で個々の意見を自由に出し合い、話し合える場を設けている。	60歳以上のベテラン職員が多くゆったりとした雰囲気の中で、現場職員は管理者とも話しやすい環境である。最近では、現場職員がより働きやすいシフトの改善や昼の休憩時間の確保や物置に棚をつけ使い勝手が良くなるように改善されるなどが話し合われた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制や休暇についての要望は柔軟な対応ができるよう調整している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がスキルアップの為施設内外の研修への参加を促したり、個別に指導を行ったりしている。また希望する研修へ参加できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで他の事業所との関わりを持ち、お互いの意見を聞いたり検討したりすることでサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接などを通じて、利用者や家族が困っていること、不安や要望を聴き問題の把握に努め、要望に沿ったケアプランを作成することで安心した生活が送れるよう取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や入所前の面接時に悩みや要望など、じっくりと話せる環境と時間を十分にとり、希望にそえるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族がどのようなサービスを望んでいるかを見極め、必要なサービスを検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体のケアになるように個々の状態に合わせて家事や日常の作業を職員と一緒にしよう取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも普段の様子を口頭や写真で伝えることで、家族さんとご本人の状態を共有できるようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があればドライブや買い物などに利用者のなじみの場所に出かけたりしている。また家族との外出や外泊、知人等の面会なども自由にしていただけるようにしている。	正月には利用者全員で近くの神社に初詣に行くなど、利用者の希望を聴き、懐かしい場所を順番にドライブしている。家族や馴染みの場所とのつながりを大切にしており、正月の外泊・墓参り等は家族の協力を得て個別支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすい座席の配慮や、レクリエーションや行事への参加を促している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の関係機関への情報提供を行ったり、家族や関係者の相談に応じたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や身体状況を把握し、日々のコミュニケーションの中や家族の情報から本人のニーズを探り出し、一人ひとりの意向にそえるよう取り組んでいる。	職員は法人理念「創造的なホームづくり」を実践し、毎日利用者とのコミュニケーションを大切に、利用者一人ひとりの思いに応えるよう努めている。介護計画更新の際にはアセスメントを取り直している。	前回の課題であった「利用者のやり甲斐、生き甲斐が感じられるアセスメントの活用」という部分について、前回より記入量は増えているが、活用するまでには至っていない。せっかく従来からの書式を変えて改革したこの欄の活用を期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネから情報収集を行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活スタイルを把握したうえで、入所後の日々の様子を観察し職員全体で共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は必ず家族さんにも参加していただきカンファレンスを実施している。直接家族や本人から情報を収集し、現場の職員の意見も聞きながら介護計画を立てている。	家族とのカンファレンスに現場職員も参加し話し合っている。利用者一人ひとりの毎日の記録を基に、どのようなサービスが必要かピックアップされた特記事項と現場職員の情報を勘案してケアマネジャーが介護計画を立ててる。モニタリング・評価もしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や連絡帳の活用、職員内のミーティングを行ったり、モニタリング結果などを参考に見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望があればその都度可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の郵便局や店への買い物、病院など、希望があれば行けるように対応している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期受診として職員同行で秋津鴻池病院に受診している。また家族、本人が希望すれば他の病院へ受診できるよう支援している。	利用者は従来のかかりつけ医を選択する事もできるが、現在のところ全員が秋津鴻池病院を受診先としている。歯科医院や県立医大付属病院に家族の付き添いで通院している方もいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期、臨時での受診の際に医師に相談している。また状態によって隣接している特養の看護師に相談やアドバイスを受けることもある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院相談課と随時連絡をとり情報交換会議を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来ることと出来ないことを伝え今後の事を一緒に考えて行けるよう、利用者や家族、関係者と共に支援に取り組んでいる。重症化した際は隣接する特養と連携できるよう体制を整えている。	利用開始時にターミナルケアを行わない旨を家族に説明している。事業所としてターミナルケアは行わない方針なので、重度化した場合の為に併設の特別養護老人ホームへ入所の申し込みをグループホーム利用開始と同時に手続する利用者が多い。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがありいつでも見られるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の特養と合同の防災訓練とグループホームでの防災訓練も実施している。	昨年4月には、国見自警団、消防署、地域住民と合同避難訓練を行い、昨年6月と今年1月にはグループホーム独自の避難訓練を行っている。飲料、缶詰等3日分の備蓄をしている。運営推進会議等で地域の代表と災害時の協力体制について話し合いができれば、なお良いと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、自尊心を傷つけないような対応や言葉かけを指導している。また月1回マナー委員会などでも啓発している。	人格の尊重などについて、日々のケアの中や申し送り等で確認し、互いに注意し合っている。また昨年7月の職員内部研修において、「利用者のプライバシーの保護」について話し合い、「ドアを開け放しにしない」、「業務上の話を利用者の前でしない」などを確認し、徹底するように努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、本人の思いを理解するように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いににならないよう利用者の思いを優先した対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回散髪の日がある。希望すれば毛染めやパーマの利用も出来る。行事や外出時などは好きな服を選んで着てもらえるよう促したり、季節に合った服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いする利用者も少なくバラつきはあるが、テーブル拭きや配膳、下膳、食器洗いなど、できる範囲で参加してもらえるよう取り組んでいる。買い物で買ってきたものを召し上がっていただくことも出来る。	母体の特別養護老人ホームの厨房で調理された料理が運ばれ、ホームの台所で盛り付けし提供して。月1回お菓子を手作りしたり、庭のテーブルで食事をしたり、ドライブの途中でお茶を飲むこともあり食事を楽しんでいる。誕生日会では皆でケーキを食べる等楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で栄養バランスは安定している。個々の状態に合った食事形態で提供している。水分については毎日の水分摂取量を記録し、お茶だけに限らずいろいろな飲み物をそろえている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、本人の状態に応じた介助法で口腔ケアを実施している。また施設内での口腔ケア研修に参加することで直接歯科衛生士にアドバイスを受けられる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や随時排泄の状態をパソコン入力し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。なるべくトイレで排泄できるよう支援を行っている。	6名の利用者は布パンツで過ごされており、利用者一人ひとりのトイレサインを見逃さないようにしている。利用者其々の排泄パターンも把握して、適時にトイレ誘導を行い自然排泄の支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も使用するが、朝に冷たい飲み物や間食に乳製品を取り入れたり、腹部マッサージを行うことなるべく自然排便につながるよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	二日に一度は入浴してもらっているが、本人が希望すれば自由に入浴していただけるよう臨機応変に対応している。	浴室は家庭的なユニットバスで、午後より入浴タイムとしているが、希望によりいつでも入浴出来る体制をとっている。職員は移乗等の研修に参加し、利用者が安心してゆっくり入浴できるよう努めている。入浴剤等を使い楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に応じて昼寝の時間をとっている。また眠る際の居室環境についても整備を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルがあり職員がいつでも見れる状態にし、内容や変化がわかるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や行事、クラブなどへの参加を促している。個々の趣味や興味のあることなどを聞き出し、好きなことをやってもらえるように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望あれば家族の協力も得て外出の機会をとっている。家族が対応できない時はグループホームでの外出時に個人の要望を取り入れるなどの対応をしている。	最寄りのJRの駅前に利用者が育てた鉢植えの花を置いており、暖かい季節には水遣りを兼ねて散歩に出かけている。隔週日曜日にはドライブや買い物に出かけており、利用者は其々の時間を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は自由にして頂いており、希望者がいれば現金を所持してもらえよう体制は整っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望あれば職員が電話を取り次いでいる。また毎月の絵手紙クラブで作成した絵手紙なども出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の花やインテリアを飾り季節感を感じられるようにしている。また毎日の掃除で清潔を心がけ気持ちよく生活できるように取り組んでいる。	壁に貼られた職員と利用者合作の「談山神社冬景色」はまるで写真を見ているように美しい。職員は「季節感あるホームづくり」を目指しており、利用者の居室の前に活けられている一つ一つの活け花からも職員の思いと季節感が感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスを設置したり、利用者同士が自由に会話できるように席の配置にも注意している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣れ親しんだものを持ち込んでもらえるようになっており住み慣れた落ち着いた環境を保てるようにしている。	居室は洋室となっているが、畳を敷き和室風の部屋もある。居室にある収納棚も季節以外のものを収納できそうで使い勝手が良い。各部屋に洗面台があり、居室で利用者は思い思いの時間を過ごされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がわかりやすい声掛けや関わりをもつように勤めている。目印をつけたり、動作の際に安全に過ごせるよう環境整備に努めている。		